るとの給けむ、をちの玄ら浪も、えんなるおとをそへたるは、よろづをりからにや、廿三日還御の日ぞ、御おくり物どもたてまつり給、御てほん、和琴、御馬二疋まゐる、院よりもあるしのおとゞに、御馬たてまつり給、院の御隨身どもけはひことにて、ほうだうの前の庭に引いでたれば、ゑもむのすけ親朝、ちかつぐ、二人うけとる、殿おり給てはいし給、（をかのや殿、かれつれのおとゞの御事なり、）そのゝち賞おこなはる、左のおとゞ一ほんし給べきよし、院のうへ身づからのたまはすれば、又たちいでて、なほしをたてまつりながら拜舞し給、よろづ御心ゆくかぎり、あそびのゝしらせ給て、かへらせ給まゝに、左大臣どのかれ（ひら）従一位し給、殿のけいしすゑより、四品ゆるさせ給、いとこよなし、寛治（堀河）には、よしつね正四位下、保元（後白河）に、月のわ殿（藤原兼實）従下の四ほんをぞし給ける、いまの御ありさまは、かのふるきためしにもこえたり、いとめでたくおもしろし、くわんぎょのたう日に、女房のそうぞくかいぐ、色々にいときよらなる十具、おの〳〵ひらづゝみにながびつにて、大納言二位のざうしにおくらる、又さいしやう三位のもとへも別につかはされけり、建久には、夏なりしかば、ひとへがさね二十具ありけるをおぼしいでけるにや、さま〴〵ゆゝしき事どもにてすぎぬ、（刊本有二錯亂一、據二古寫本一訂、）

〔增鏡（北野の雪）〕そのとし（文永四年）ながつきのころ、左のおとゞ（近衛殿藤原基平）の日野山莊へ、一院（後嵯峨）新院（後深草）大宮院（後嵯峨后姞子）御幸あり、世になききよらをつくさる、銀金の御さらども、螺鈿の御臺、うち敷めなれぬほどの事どもなり、院の御分御小直衣皆具、夜の御衾、白御大刀、御馬二疋、からあや魚綾などにて、二階つくられて、御雙子箱、御すゞりは世々をへておもきたからの石なり、管絃の御厨子、樂器色々のあやにしきなどにてつくりておかる、女院の御かた、新院の御ぶんなども、おなじやうなり、大納言二位殿にも、裝束まもりのはこまで、いとなまめかしうきよらなる物どもぞありける、上達部殿上人にも、馬牛ひかる、銀のかたみを五くませて、松茸入らる、山へみないらせ